



# 東北復興日記

まだまだ



JKSK会員

オフィスJY代表

やまうちまろ  
矢動丸純子さん

▶▶ 213

炉が完了するのかな、その時、この土地一帯はどのようなようになっていたのか。次々と疑問が浮かびました。予測できない未来に、心が押しつぶされそうになりました。

昨年夏、「はじめての福島学」の著者で立命館大学准教授の開沼博氏、ベテランママの会代表の番場さち子氏、東京電力副社長兼福島復興本社代表（当時）の石崎芳行氏を福岡にお呼びして、福島の現状を知る講演会を開催しました。口コミだけでの集客でしたが、約七十人が参加して熱気あふれる質疑応答が繰り広げられました。

そして今年三月十二日。前日から福島入りし、星槎大学副学長の細田満和子氏と番場氏のコーディネートによる福島第一、第二原発の視察に参加しました。写真。まず第二原発に行き、専用の衣服に着替え、ヘルメット、手袋、靴を履き、原子炉建屋の中へ。使用済み核燃料を冷却している貯蔵プールや原子炉格納容器の真下で、現

## 事故現場に「がくぜん」

た。

十二月には、東京電力福島第一原発を視察しました。六年間、手

在、第一原発2号機でデブリがあるときれている場所や状況の説明を受けました。

つかずの荒れた地、想像をはるかに超えた広大な敷地に広がる汚染水をためたタンクの数……。目の当たりにした事故現場の壮絶さ、ここにあるものほとんどが、ゴミ一つでさえも汚染物質という現実「がくぜん」としました。説明を聞きながら、本当に三十年で廃

午後には私にとっては二度目の第一原発へ。前回ほどの心の乱れはなく、冷静に見ることができました。この「グラウンド・ゼロ」のために福島の人々は苦しみ、人生を変えさせられています。しかもその電力は、他の土地に住む人たちのために作られていたものでした。私たちは、多くの福島県民の犠牲の上で、日本の将来を考える機会を与えられ、一人一人がその生き方を問われています。今後も福岡で、原発視察の報告会や有識者を交えた勉強会を開催し、福島の現状を伝え続けたいと思います。



※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。